

お客様
関係者各位

ロボットアートテクノ株式会社

ロボットアートテクノ株式会社の法人化前の長谷川技術開発の時に、無料で検証用に貸し出した無線モジュール評価基板の返却を求めて「ヤクト株式会社（代表取締役 臼井理浩）」(ホームページ:<http://jagd.jp/>) を提訴いたしました。

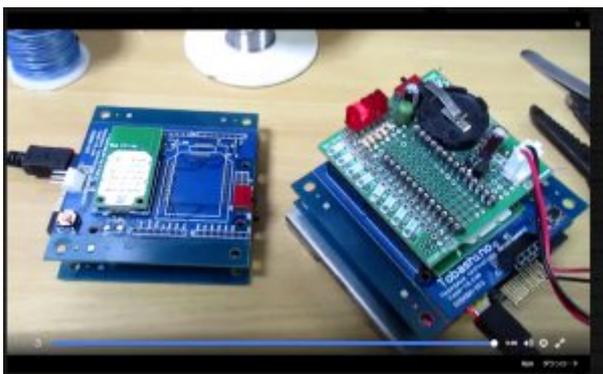
平成27年7月に 狩猟用罾のモニタリングシステムをヤクト株式会社から受注しました。商品化したい製品開発で、いくつか機能を盛り込みたいようでしたが開発費が少なく、他社では断られていたので、予算内で検証できる項目をピックアップして製作して納品しました。
(他社提示の半額程度の予算)

獲物が掛かった罾に仕掛けられた子機からユーザーの手元にある親機に、電波で有無を知らせる装置を開発しました。
(わざわざ現地で確認する必要はありません)
子機(罾)は複数あって、どの罾が掛かったか特定できるように。
親機・子機の複数のユーザーと混線しないように。

1次試作機として完納しました。

低予算で親機 ID、子機 ID を管理できる無線モジュールで罾のモニタリングシステムを作製したので電波の飛距離の検証は二次です。
(それでも1次試作の納品までに仕様要求に満足するようアンテナを変え、無線モジュールを変えています)

山中では電波が届かないという問題が出てきたので、周波数の低い飛距離の長い無線モジュールを使った評価機を検証用に貸し出しました。



これで飛距離を満足すれば、1次試作のシステムと無線モジュールを合わせれば実用化に近づけられます。

(この無線デバイスはID管理が出来ないので、マイコン追加と組み込みソフトの追加が必要です)

2次試作の受注に繋がればと思って無償で貸し出しました。

(ヤクト株式会社から貸し出しの要望がありました)

貸し出してもしばらく応答がないので、こちらから連絡したところ、「開発の質が悪い」と言うので協力を打ち切り、「今後の開発は他社に依頼するように」「無償で貸し出している無線評価機を返却して欲しい」と連絡したところ、応答なくなりました。

そこで返却すれば良かったのですが

「質が悪い」と言いつつ、この無線モジュール・評価機を使って開発しているようです。

この無線モジュールは同業者の「合同会社 菅工房」さんから借りていて、同様に借りたまま返却してません。

(無線モジュールは「菅工房」所有、マイコン・LED 以下評価機は弊社のもので)弁護士事務所を通して、返却するよう内容証明を送りましたが無視されました。(登記簿にある大阪とホームページにある竹田オフィスにそれぞれ送りました)

回答がないので大阪簡易裁判所へ提訴して、返却要請・弁護士費用(内容証明・訴訟費用作成)・返却しなかった期間の損害賠償をヤクト株式会社に請求しました。

当社を支えてくださる関係各位には、大変ご心配をおかけいたしますが、何卒、ご理解とご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

以上